

1. 大学での学び・楽しい? 授業

大学での授業のおもしろさというのは、学生と先生とのインタラクションだと感じています。お互いに直接に影響しあって、創っていくのが皆さんとのインタラクションを心がけます。

まず訂正です。オンライン講義ビデオはMOOCでした。大学はなくなれないという意見に賛同してもらえて心強く思いました。今後も学生の皆さんとのインタラクションを心がけます。

大学の学びというもののあり方だと思います。人は鼻の方に進みませ放送の授業(か全計)に1の講義の重さもダジャレもインタラクションかも。感じなくなり、次第に受け入れはしなくなり、はなれていく。ちょっとは記憶に残るといいです。

先生のダジャレがうけはいいのは存せし、多分、突発的に先生が言う「ナノかわゆる」と、いつか自分が使ったら絶対ハッキリするわ(笑) 今日「ナノ」がはかばかになりますね! 僕は好きで、先生が流行らせてないと言った「ナノ」はいいヤ、ナノありがとうは

↑ → なんとか桜美林発の流行を作りたいんですよ。 ↓ とてもうれしかったのは事実です! 実験結果よりも、成功した先生のとて嬉しそうな顔の方が、きっと皆さんのIP像に ↓ 私も!

残ったと思います。良い意味で子供のような笑顔でした! お湯と水の実験の成功がみれて良かったです。

2. 論語の一節について

勉強してから、考えるようにしようと思った。その知識が「ふたやいざ」ppらたいと納得しました。

勉強してから、考えるようにしようと思った。その知識が「ふたやいざ」ppらたいと納得しました。先生、孔子のお話を聞いて、確かに勉強して知識を

勉強してから、考えるようにしようと思った。その知識が「ふたやいざ」ppらたいと納得しました。昔の人は物事をよく考える子と思つた。も、できないと考えることはできないかと思つた。

勉強してから、考えるようにしようと思った。その知識が「ふたやいざ」ppらたいと納得しました。皆さんに、この講義で一番大事だと私が思っているメッセージが伝わったようで良かったと思います! 是非、しっかりと覚えておいてください!

3. わかると面白い・嫌い・やりたくない...

原子については、高校のころかなりも嫌いでしたので、講義を聞いていく中で理解していき、好きになれたらな〜と思います。今日の講義は今まで一番物理学面白いというが、理系だなと感ずる内容でした。

核分裂反応はなるほどと思った部分もありましたが難しかったぞ。高校の時物理学をやってあげば、今と後悔します。深い授業を自分の力で理解して楽しめたので、化学のいれものが出ると、物理の性理論のあたりから、とても難しくなりました。

原子の話は少し難しく感じます。元素の周期表も高校の時正直に書くと、私は皆さんが原子の話を難しいとか、つまらないとか、面白く思いたいとか、全く興味がありません。

今日の授業は、最初は「ナノメートル」なびお話を言っていたのが、最後は原子爆弾や原子力など重い話になり、驚きの展開でした。原子エネルギーの核分裂反応などとても難しいお話でした。

しかし、先生の「これが原子爆弾の原理です」ということは、一瞬に現実味を感じました。でも、好きとか嫌いとか、面白いとかつまらないとか、それは皆さん自身が決めることで、他の誰かが趣味を強制するものではありません。

「オロロ」の文は高校の現代文の授業で暗記しました。原子だけでなく、論語のような古典や、歴史も、皆さんの好き嫌いに、興味はありません。

もう忘れましたが、良くも悪くも高校の頃を思い出しました。深文や配られた周期表がとても面白いです。確かに高校で勉強した授業が楽しかったからか、とても難しく感じました。

物理学が得意な人の脳内はどうなっているのか、どうやって物理学に興味を持つ得意になれたのか? が、どちらも最初は楽しんで勉強していたのに...

しかし、もしも皆さんが「面白いから勉強する」「つまらないから勉強しない」と思っているのならば、それを黙って見過ごすわけにはいきません。なぜならば、私たちには主権があって、いろいろな事を判断して決めなければならないからです。そして判断するならば、孔子が指摘したように、知識を持たなければ道を誤るからです。福島第一原発の事故という現実がある中で、私たちはどれだけ、原子のこと、放射線のこと、被害に苦しむ一部の人々のことを知っているのでしょうか? そして、どれだけ知ろうと努力したのでしょうか。それを知らずに正しい判断ができるのでしょうか。決してできません。こうした事柄について「なぜ勉強するのかわからない」と思う気持ちがわかりません。好きも嫌いも関係ありません。私たちが便利な生活を手にした代償として、勉強して正しく判断することは義務です。

しかし「そんなの難しいから専門家に任せればいいじゃん」と思うかもしれません。はたしてそうでしょうか? それは第14講のもうひとつのテーマです。

